

JAPIO

(c) 2005 JPO & JAPIO. All rights reserved.  
05856531 COSMETIC FOR COLORING EYEBROW

Pub. No.: 10-139631 [JP 10139631 A ]

Published: May 26, 1998 (19980526)

Inventor: SHIMIZU TOSHIO

WAKAO NORIKO

Applicant: KOKURIYUUDOU KK [418077] (A Japanese Company or Corporation), JP  
(Japan)

NIPPON SHIKIZAI KOGYO KENKYUSHO KK [456766] (A Japanese Company or  
Corporation), JP (Japan)

Application No.: 08-302864 [JP 96302864]

Filed: November 14, 1996 (19961114)

International Class: [ 6 ] A61K-007/032; A61K-007/02

JAPIO Class: 14.4 (ORGANIC CHEMISTRY -- Medicine); 14.2 (ORGANIC CHEMISTRY --  
High Polymer Molecular Compounds)

#### ABSTRACT

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a cosmetic for coloring eyebrows, capable of being easily and uniformly coated on the hairs of the eyebrow, respectively, and capable of maintaining the flexibility of the eyebrow, even when the eyebrow is coated with the cosmetic.

SOLUTION: This pasty cosmetic for coloring eyebrows comprises 1-30wt.% of a coloring agent, 1-5wt.% of carnauba wax, 1-5wt.% of beeswax, 0.5-5wt.% of polyethylene powder, 1-10wt.% of hardened oil, 1-10wt.% of a metal soap, 0.5-5wt.% of dextrin palmitate, 40-80wt.% of light liquid paraffin and 0.5-5wt.% of a nonionic surfactant as main active ingredients. The cosmetic for coloring eyebrows can form flexible coating films on the hairs of the eyebrow, is good in adhesivity to the eyebrow, can especially color the eyebrow with proper viscosity and proper elongation, does not drip due to suitable evaporability, when coated on the eyebrow, and is difficult to discolor.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-139631

(43) 公開日 平成10年(1998) 5月26日

(51) Int.Cl.<sup>9</sup>

識別記号

F I

A 6 1 K 7/032

A 6 1 K 7/032

7/02

7/02

J

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平8-302864

(22) 出願日 平成 8 年 (1996) 11 月 14 日

(71) 出願人 596164696

株式会社黒龍堂

東京都港区芝公園 2 丁目 6 番 15 号

(71) 出願人 390041036

株式会社日本色材工業研究所

東京都港区三田 5 - 3 - 13

(72) 発明者 清水 敏夫

東京都港区芝公園 2 丁目 6 番 15 号 株式会社黒龍堂内

(72) 発明者 若生 範子

東京都港区三田 5 丁目 3 番 13 号 株式会社日本色材工業研究所内

(74) 代理人 弁理士 竹内 三郎 (外 1 名)

(54) 【発明の名称】 眉毛着色用化粧料

(57) 【要約】

【課題】 眉毛の毛一本一本に容易かつ均一に塗付でき、しかも塗付しても眉毛のしなやかさを保持することができる眉毛着色用化粧料を提供する。

【解決手段】 着色剤 1 ～ 3 0 重量%、カルナウバロウ 1 ～ 5 重量%、ミツロウ 1 ～ 5 重量%、ポリエチレン末 0. 5 ～ 5 重量%、硬化油 1 ～ 1 0 重量%、金属石けん 1 ～ 1 0 重量%、パルミチン酸デキストリン 0. 5 ～ 5 重量%、軽質流動イソパラフィン 4 0 ～ 8 0 重量%、ノニオン界面活性剤 0. 5 ～ 5 重量%を有効主成分として含有させ、ペースト状の眉毛着色用化粧料を製造した。この眉毛着色用化粧料によれば、表面に柔軟な皮膜が形成され、眉毛に対する付着性が良く、適度な粘性と伸びによって特に眉毛の着色がしやすく、適度な揮発性によって眉毛に塗布した際に垂れてくることもなく、しかも色落ちしにくい。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 着色剤、ワックス、粘度調整剤、溶剤及び分散剤を有効主成分とし、塗布表面に柔軟な皮膜を形成し得るようにペースト状に形成してなる眉毛着色化粧料。

【請求項2】 着色剤1～30重量%、ワックス3.5～25重量%、粘度調整剤0.5～10重量%、溶剤40～80重量%及び分散剤0.5～5重量%を有効主成分として含有する眉毛着色化粧料。

【請求項3】 着色剤、ワックス、粘度調整剤、溶剤及び分散剤の配合割合が、重量比で1～30：3.5～25：0.5～10：40～80：0.5～5である請求項2に記載の眉毛着色化粧料。

【請求項4】 着色剤1～30重量%、カルナウバロウ1～5重量%、ミツロウ1～5重量%、ポリエチレン末0.5～5重量%、硬化油1～10重量%、金属石けん1～10重量%、パルミチン酸デキストリン0.5～5重量%、軽質流動イソパラフィン40～80重量%、ノニオン界面活性剤0.5～5重量%を有効主成分として含有する眉毛着色化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、眉毛自体を着色するのに好適な眉毛着色化粧料に関する。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】眉毛用の化粧品としては、従来、スティック状または固形粉末状等に形成された眉墨（アイブロー）があったが、これは好みの眉型としたり或いは眉を濃くするために、地肌に直接着色するものであり、眉毛自体を着色するものではなかった。

【0003】一方、まつ毛用のマスカラは、まつ毛自体に塗り付けるものであるが、本来、まつ毛を立たせたり、黒ずませたりして目を美しく魅力的に引き立たせるように化粧するものであって、そのために塗布後速やかに乾燥し、まつ毛相互がくっつかず、転色したりにじんたりもせず、しかもまつ毛をカールさせたままの状態を維持できるように成分を調製されているため、これを眉毛に使用した場合には、グマができたり、ごわついて眉毛のしなやかさが失われ、しかもまつ毛に比べて柔らかで長いまゆ毛においては均一に塗り付け難いなどの問題を生じるおそれがあった。

【0004】本発明は、上記現状を踏まえ、眉毛の毛一本一本に容易かつ均一に塗り付けることができ、しかも塗り付けても眉毛のしなやかさを保持することができる眉毛着色化粧料を新たに提供せんとするものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するための本発明は、着色剤、ワックス、粘度調整剤、溶剤及び分散剤を有効主成分としてペースト状に形成し、塗装表

面に柔軟な皮膜を形成するように眉毛一本一本に対して容易かつ均一に塗り付けることができる眉毛着色化粧料としたものである。

【0006】さらに本発明は、着色剤、ワックス、粘度調整剤、溶剤及び分散剤の配合を特定し、また、相関割合を特定して、柔軟性、付着性、粘性、揮発性、定着性、皮膜性等のバランスを調整し、表面に柔軟な皮膜が形成され、眉毛に対する付着性が良く、適度な粘性と伸びによって特に眉毛の着色がしやすく、適度な揮発性によって眉毛に塗布した際に垂れてくることもなく、しかも色落ちしにくい眉毛着色化粧料としたものである。

【0007】すなわち、上記眉毛着色化粧料は、着色剤1～30重量%、ワックス3.5～25重量%、粘度調整剤0.5～10重量%、溶剤40～80重量%及び分散剤0.5～5重量%を有効主成分として配合するものであり、特に好ましくは着色剤、ワックス、粘度調整剤、溶剤及び分散剤の配合割合を、重量比で1～30：3.5～25：0.5～10：40～80：0.5～5とするものである。ここで、上記着色剤を30重量%より著しく多く配合すると、伸びが不足して均一に塗布できにくくなり、1重量%より著しく少ないと着色が全うされにくくなる。また、上記ワックスを25重量%より著しく多く配合すると、皮膜が固くなり均一に塗布できなくなり、3.5重量%より著しく少ないと、皮膜が十分に形成されず、転色しやすくなってしまう。

【0008】上記着色剤としては、タルク、セリサイト、酸化チタン、亜鉛華、マイカ、カオリン、シリカ、ナイロンパウダー等の体質着色剤と、酸化鉄、群青、紺青等の無機着色剤と、赤色201号、赤色202号等の有機タール色素とを挙げることができるが、これらに限定するものではない。

【0009】上記ワックスとしては、カルナウバロウ、ミツロウ、カスターワックス（硬化油）、キャンデリラワックス、パラフィンワックス、ポリエチレンワックス、マイクロクリスタリンワックス、セレシン及びオゾケライトなどからなる群より選ばれる一種又は二種以上のものを使用することができる。

【0010】上記粘度調整剤としては、パルチミン酸デキストリン、金属石けんのいずれか或いは両方を使用し、金属石けんとしてはステアリン酸アルミニウム、ステアリン酸亜鉛のいずれか或いは両方を使用することができる。

【0011】上記溶剤としては、揮発性の軽質流動パラフィンが挙げられる。また、必要に応じてスクワラン、流動パラフィン、ミリスチン酸オクチルドデシルホホ油、ジメチルポリシロキサンなどの油剤を配合することもできる。

【0012】上記分散剤としては、モノオレイン酸ソルビタン、セスキオレイン酸ソルビタンなどのノニオン界面活性剤を配合するのが好ましい。

【0013】上記眉毛着色化粧料には、酸化防止剤、防腐剤を添加するのが好ましい。酸化防止剤としては、天然ビタミンE、ジブチルヒドロキシトルエン、dl- $\alpha$ -トコフェロールなどが挙げられ、防腐剤としては、パラオキシ安息香酸エステル、フェノキシエタノール、安息香酸ナトリウムなどが挙げられる。

【0014】上記配合からなる眉毛着色化粧料は、ペースト状化粧料として提供することができる。ペースト

着色剤	・・・	1	～	30重量%
カルナウバロウ	・・・	1	～	5重量%
ミツロウ	・・・	1	～	5重量%
硬化油	・・・	1	～	10重量%
ポリエチレン末	・・・	0.5	～	5重量%
ステアリン酸アルミニウム	・・・	0.1	～	5重量%
パルミチン酸デキストリン	・・・	0.5	～	5重量%
軽質流動イソパラフィン	・・・	40	～	80重量%
モノオレイン酸ソルビタン	・・・	0.5	～	5重量%
天然ビタミンE	・・・	0.01	～	1重量%
パラオキシ安息香酸エステル	・・・	0.01	～	0.8重量%
フェノキシエタノール	・・・	0.01	～	0.8重量%

【0017】上記配合において、パルミチン酸デキストリンは0.1重量%よりも少ないと温度安定性が悪くなる傾向があり、5重量%よりも多いと固くなって均一に塗布しにくくなる。軽質流動イソパラフィン40重量%よりも少ないと固くなって均一に塗布しにくくなる。モノオレイン酸ソルビタンは0.5よりも少なくとも、また5重量%よりも多くても安定性が悪くなる傾向がある。また、カルナウバロウ、硬化油のいずれも1重量%よりも少ないと温度安定性が悪くなる傾向がある。

【0018】（実施例）着色剤20重量%、カルナウバロウ3重量%、ミツロウ3重量%、ポリエチレン末2.75重量%、硬化油5.5重量%、ステアリン酸アルミニウム2.75重量%、パルミチン酸デキストリン2.

状化粧料とすることにより、ブラシに付着しやすく、塗布時に垂れることがなく、しかも均一に眉毛に塗布することができる。

【0015】

【発明の実施形態】次に、本発明の眉毛着色化粧料の好適な配合例を以下に示す。

【0016】

75重量%、軽質流動イソパラフィン57重量%、モノオレイン酸ソルビタン2.75重量%、天然ビタミンE0.1重量%、パラオキシ安息香酸エステル0.4重量%、フェノキシエタノール0.4重量%を混合し、加熱溶解した後、攪拌して均一としてペースト状の眉毛着色化粧料を得た。

【0019】上記製造した眉毛着色化粧料を、通常使われているマスカラ用の棒状ブラシを使って眉毛に塗布したところ、眉毛に対してなじみが良く、適度な粘性と伸びによって毛一本一本に対して均一かつなめらかに塗布することができ、しかも塗布した際に垂れることもなく、乾燥後手で擦った程度では色落ち及び転色することもなかった。